

舗装施工管理技術者技術講習会



記憶に残そう!東日本大震災から2年6か月が過ぎた9月11日、名古屋の最高気温が31度と、時候では「初秋」の挨拶で始まる日、(一社)日本道路建設業協会主催による平成25年度舗装施工管理技術者技術講習会が名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で愛知県を始め10都県から167名が参加し、舗装施工管理技術者に対し最近の舗装技術の習得と技術力の向上を目的に6時間に渡り開催されました。

冒頭開会挨拶で、(一社)日本道路建設業協会の川端支部



川端支部長挨拶

長は、舗装市場の厳しい経済状況や最高水準にある舗装技術の基礎となる「舗装施工管理技術者資格試験制度」は、1994年度に創設され95年度から試験が実施されている事、また、この試験の合格者は2012年10月時点で1・2級合わせて約6万3000人で、これら多くの専門技術者が舗装工事に携わり、舗装の技術水準と品質向上に大きく貢献している事を紹介してうえで、本日の講習を現場に活用し、ますますの技術力の向上に役立ててほしいと述べられました。

講習プログラムでは、第1章は、国土交通省中部地方整備局道路部の岡田武久道路情報管理官から「舗装事業をめぐる社会・経済情勢と各種制度」について説明があり、引き続き第2章から第4章までを道建協が担当し、「舗装工事の安全対策」・「建設副産物対策」・「最近の舗装技術の動向(Ⅰ)(Ⅱ)」についてそれぞれ説明を行いました。尚、今回の講習会ではCPDS認定講習会として5ユニットが付与されました。

最後に講習された方々の意見を抜粋しました。

- 一、情報化施工を多く取り入れて欲しかった。
- 二、最近の舗装技術の動向について実際に実施している傾向等をもっと取り入れて欲しかった。
- 三、若者技術者が減っているが、それについての政策や対策を具体的に知りたかった。
- 四、各章ごと動画や映画等の動きの画面が欲しかった。